

第3回中野区基本構想審議会

○日時 令和元年9月27日(金曜日)午後7:00~9:00

○会場 中野区役所7階 第8・9・10会議室

○出欠者

1 中野区基本構想審議会委員

出席委員(21名)

相川 梓、饗庭 伸、和泉 徹彦、大塚 桂樹、岡井 敏、岡見 初音、
小澤 温、岸 哲也、小池 浩子、興梠 与利子、五味 道雄、佐藤 真木、城山 智子、
甚野 誠一郎、高橋 宏治、高橋 佐智子、藤本 飛鳥、宮脇 淳、室伏 渉、吉村 芳明、
米持 大介

欠席委員(4名)

今村 亮、能登 祐克、松本 洋子、由良 明彦

2 事務局

企画部長	高橋 昭彦
総務部長	海老沢 憲一
危機管理担当部長	滝瀬 裕之
新区役所整備担当部長	(総務部危機管理担当部長 滝瀬 裕之 兼務)
区民部長	青山 敬一郎
子ども教育部長(教育委員会事務局次長)	戸辺 眞
子ども家庭支援担当部長	小田 史子
地域支えあい推進部長	野村 建樹
地域包括ケア推進担当部長	藤井 多希子
健康福祉部長	朝井 めぐみ
保健所長	向山 晴子
環境部長	岩浅 英樹
まちづくり推進部長	角 秀行
中野駅周辺まちづくり担当部長	豊川 士朗

【議 事】

○宮協会長

それでは、定刻になりましたので、ただいまより中野区基本構想審議会の第3回を始めさせていただきます。

本日は、今村委員、能登委員、松本委員、由良委員からご都合により欠席とのご連絡を受けておりますが、半数以上の委員の方に出席をいただいておりますので、会議は有効に成立をしております。したがいまして、開会をさせていただきます。まず本日配付された資料の確認を事務局からお願いします。

○永見基本構想担当課長

それでは、次第の裏面をご覧くださいと思います。第3回基本構想審議会配付資料ということで、本日の配付資料は「資料1 中野区基本構想審議会答申案」の1点でございます。資料作成に当たり、会長、副会長、また部会長の皆様と調整して答申案を作成いたしました。内容については、宮協会長から一括してご説明をいただけるということになっておりますので、のちほど、お願いできればと思います。説明は以上でございます。

○宮協会長

ありがとうございました。それでは次第に沿って審議を行いたいと思います。次第にありますように、本日の議題でございますけれども、基本構想審議会答申（案）について、でございます。私から基本構想審議会の答申（案）について概要をご説明し、審議を始めたいと思います。

お手元の方に配っていただいております。中野区基本構想審議会答申（案）というものをご覧いただきたいと思います。表紙をめくっていただきまして、まず構成でございますけれども、1ページ目の一番上の表題をご覧くださいまして、「1 改定にあたって踏まえるべき基本的な考え方」。それから恐縮ですけれども、4ページ目に進んでいただきまして、「2 改定にあたって盛り込むべきと考える事項（10年後に実現するまちの姿）」という大きな章立てになっております。ここまでの部分につきましては、区長のほうからいただきました諮問に対応するという形になっております。そして12ページ目をお開きください。12ページ目以降につきましては、参考資料と書いてございます。基本構想審議会各部会での討議概要ということになっております。今回の答申を踏まえて、中野区においては、基本構想や分野別の計画等につきまして、ご検討いただくことになるわけですが、それに向けて各部会でのご発言について具体的に反映をしていただきたいということで、この

参考資料として部会ごとに記載をさせていただいているというものでございます。したがって、答申そのものは、11 ページまででございますが、12 ページ以降につきましても中野区としてこれを尊重していただければと、いうふうに思っております。この答申でございますけれども、さきほど申し上げましたように中野区長からの諮問を受けまして、中野区長に対してお返しをするという構造になっております。内容については、一般的には読みづらい部分もあるというふうに思っております。したがって、区民向け、あるいは基本構想等においてはわかりやすい書き方となるよう、取り組んでいただきたいと、のちほど、お願いをしたいと思っております。

1 ページ目にお戻りください。「1 改定にあたって踏まえるべき基本的な考え方」というところでございます。これまでの部会あるいは全体会の議論を踏まえて、まず「(1) 将来を見据え対応すべき社会状況等」ということを整理させていただいております。まず「① 新たな地域コミュニティの構築」ということでございます。大きく3つの段落に分かれております。最初のところが、シェアリングエコノミーですとか、働き方改革実現の動きの中でのフルリモートあるいはフルフレックス、ワークシェアリングといったような、ちょっとカタカナが並んでおりますが、こういう変化が生じている中で、4行目の後半でございます、仕事と地域生活の両立を唱えるワーク・ライフ・コミュニティ・バランスという考え方が登場していると。こうした社会情勢の中で働くこと以外にも自らの経験やスキルを生かして気軽に地域で活動できる環境整備が求められているという整理をしております。第2段落のところ、中野区においては、長年にわたって町会・自治会等の活動というものが行われているわけですが、一方で、少子高齢化の進行ですとか、あるいは区民のライフスタイルの多様化等々によりまして、町会・自治会をはじめとした多くの団体が担い手不足といったような課題を抱えているという指摘をいただいております。そこで、第3段落でございますけれども、持続可能な地域の自治を実現するためにも町会・自治会などの地縁を中心としたつながりが将来にわたって発展するとともに、多様な人々がライフスタイルに応じて様々な形でつながる新たな地域コミュニティの構築が求められるという整理をさせていただいております。

続いて、「② 超高齢化社会への対応と子ども・子育て関連施策の充実」ということでございます。第1段落は現状について説明、あるいは今後の状況について説明をしたところでございますが、第2段落のところ、下から4行目ですが、これまで中野区では地域の見守り・支え合い、こういったような活動が行われてきた。これらの取組については、今

後、人生 100 年時代に向けて、医療・介護等の需要の拡大が見込まれる中で、さらに充実していくことが必要となっているということ。そして 2 ページ目に移っていただきまして、一方でという 1 行目の出だしがございますが、子育て・教育については、区民に対するアンケート調査におきましても、一番大切だという回答をいただいております、広く区民に関心の高いテーマであるという認識をしている、というふうに記載をさせていただいております。こうした中で、次の段落でございますが、超高齢化社会において地域の活力を今後も維持していくためには、将来にわたって特に 20～30 歳代の定住人口を確保していく必要があります、そのためにも子ども・子育て関連施策の充実を進めていくことが求められるという整理でございます。

そして、「③ 外国人住民との共生」という点でございます。特に第 2 段落におきましては、中野区に住む外国人人口につきまして、数字をもって整理をさせていただいております。そして第 3 段落におきましても、中野区民の意識実態調査では外国人と同じ地域で生活する上で重要なこととして、お互いが相手のことを思いやる気持ちという選択肢が 4 割の方に選ばれているということで、区民も多様な文化や価値観を持った人々を理解することの大切さを重視していることがうかがえるということで、最後の段落でございますが、多種多様な文化や価値観、考え方をを持った外国人が、地域の一員として共生し、安心して暮らし続けられる地域社会の実現が求められるとしております。

そして、「④ Society5.0 の到来を見据えた新たな区民生活」ということで、ICT ですとか、AI、ビッグデータ、IoT といった、新技術の社会実装が進む中で、人間中心の社会として Society5.0 という実現が提唱されているということでございます。そこで、第 2 段落にございますように、色々な取り組みの中で、最後にございますように、超スマート社会への移行が進んでいる。こうした社会の到来を見据えて、安全・安心で、より快適な区民生活の実現と、行政サービスの提供を社会全体で追求していくことが求められるとしております。

そして 3 ページ目をご覧ください。「(2) 改定にあたって重視すべき 3 つの視点」というのを整理してございます。この 3 つの視点というところでございますけれども、本審議会に対しまして、区長から諮問をいただくときに、この 3 点を重視して検討してもらいたいという内容でいただいております、その内容について、少し整理をさせていただいております。一つといたしましては、「多様性の共存とゆるやかなつながり」ということでございます。中野区は都市部においても下町的な雰囲気があり、またサブカルチャーなど多様な文

化を受け入れてきている土壌があるということで、多様な国籍や文化、価値観を持つ人々が暮らしている中で、個性を受け入れる寛容さを地域風土として生かすべきであると記載しております。また一方で人間関係の希薄化が進む中で、地域社会を支えてきた地域団体の強固なつながりとともにライフスタイルや関心、意欲に応じて、誰もが気軽に地域で関わりを持てる「ゆるやかなつながり」による新たな地域コミュニティが構築されると考え、このように整理をしております。

また、「② 新しい物語のはじまりと再出発のまち」ということで、中野区は、非常に20歳代での転入者が多いということがございます。また、2行目でございますが、自治体間競争が激しさを増す中で、次々と新しい人が流入してくることを強みの一つとしてとらえて、「人生の新しい物語がはじまる」ことをまちの活気の源として生かすべきである。加えて、結婚や子どもの誕生、或いは、社会・経済活動の開始、人生100年時代における第2・第3の生きがいの形成、人生の再出発など、「人生のはじまりの再出発」をまち全体として応援し、そのことが、地域社会、地域経済の持続的な発展が、それによって実現できると考える、としております。

「③ 未来を協創する垣根を越えた協働」ということでございます。社会課題が多様化・複雑化して、民間事業者によるソーシャルビジネスや公的サービス、NPOや地域活動団体等による市民活動がさらに活発化するとともに、先ほど申し上げましたような、ICTなどの進歩により変化する社会において、3行目でございます、行政が担うべき役割を見極めていく必要があると。また厳しさが増すことが予想される少子高齢化の影響が、区財政の状況を鑑みると、より一層地域の持つ可能性を引き出していく必要があるのではないかと。こういう問題意識の中で、最後の3行でございますけれども、将来にわたって持続可能なまちであり続けるために、この「協働」と、それにより、共に新しいもの創り上げていく「協創」を推進していくことで、地域力を高めていくことができると考える、という形で、区長の方にはお返しをすると、こういう整理をさせていただいております。4ページ目からですけれども、「2 改定にあたって盛り込むべきと考える事項」につきましては、10年後に実現するまちの姿ということでございます。これについては、すでに部会の方から、この全体会議におきまして、報告をいただいておりますけれども、その部会報告をベースにして、整理をさせていただいております。したがって4ページ目のところの(1)自治・共生・活力については、ここでの部会報告をいただきましたので、基本的にはそれを整理をするという形で、このように提示をさせていただいております。そして6ページ目

でございますけれども、(2) 子育て・教育ということで、やはりこれも子育て・教育部会からいただきました。内容につきまして、ポイントになる点をまとめさせていただいております。そして8ページ目に進めさせていただきまして(3) 健康・医療・福祉部会の方からいただきました点につきましても、ここで整理をさせていただいております。そして最後ですけれども10ページ目に(4) 都市・防災・環境部会でのまとめというのをここに整理をさせていただいております、(1) から(4) までの部分。先ほどの4ページ以降についての「2 改定にあたって盛り込むべきと考える事項(10年後に実現するまちの姿)」につきましては、各部会長にも、ご確認をいただいたところではございます。

12ページ目、先ほどご紹介をいたしましたように、基本構想審議会の各部会の討議概要ということで、これも部会毎に整理をさせていただいております。先ほどご報告させていただきましたように、この部分は直接諮問に対する答申ということではなくて、参考資料として提示をさせていただいておりますけれども、これから区側で基本構想ないしそれに基づく各分野別の計画ですとか、基本計画を検討していただくに当たりまして、皆様からは具体的なご提案もいただいておりますので、そういったものをぜひ参考にして反映をさせていただきたいということでこのように記載をさせていただいております。

今後の進め方でございますけれども、今日は、概要的にご報告をさせていただきました答申(案)のまずは、1ページ目から11ページ目まで、ここの部分につきまして、ご意見をいただきたいというふうに思っております。次回10月にもう一度お時間をいただいておりますけれども、今日皆様からいただいたご意見につきまして、副会長と私の方で検討させていただき、また事務局と検討させていただいて、そして10月の段階で最終的な確認を取っていただくという形で進めて参りたいと思っております。繰り返しになりますけれども、これは副会長、部会長からも、強くご指摘をいただいた点ですけれども、今回は中野区長に対する答申ということで、諮問に対してこのようにお返しをするという形をとっております。したがって、先ほど私が冒頭申し上げましたように、必ずしも区民の視点から見て、わかりやすい語句が並んでいるとは言えない部分があるかと思っております。これは、区長を通して、行政部局の方に、きちっとお伝えをするという内容であると。ただし、基本構想や、区民に対してこの答申について説明をする、伝えていく場合には、ぜひこの内容について、わかりやすい丁寧な内容としたうえでお伝えいただきたい。これは副会長もご指摘くださいましたように、私も含めて、区側にぜひお願いをしておきたいというふうに思っております。その点だけまず冒頭に確認をさせていただきます。

○永見基本構想担当課長

はい。答申をいただきました後、基本構想案を策定する段階では、しっかり区民の皆様
にわかりやすい表現とするように努めて参りたいと思います。

○宮協会長

ありがとうございます。

それでは、まずは基本構想審議会答申（案）の1章と2章について、どこからでも結構
です。お気づきの点等があればご発言をいただいて、私と副会長で整理をしていきたいと
思います。よろしく願いいたします。

○和泉部会長

子育て・教育部会の部会長を務めさせていただきました和泉です。6ページから7ペー
ジにかけてのところでございますけれども、私の方でいろいろ項目ごとに切り張りをして
る中に一文どうしても抜けてしまった部分がございます、この挿入をお願いしたいと思
っております。7ページ目の「⑤社会の変化に対応した教育・保育」というふうに書かれ
ておりますが、実はここ、学校の教育の方にすぐ行ってしまいまして保育のところは抜け
てしまいました。ですので、ここに「幼稚園、保育所及び認定こども園は就学前の子ども
たちに質の高い幼児教育・保育を提供している」という一文をぜひ入れていただきたいと
いうふうに考えております。

○五味委員

都市・防災・環境部会の五味でございます。40年前、人口はのぼり調子にあったん
ですが、将来の40年後っていうのは、日本の人口が8,000万人程度になってしまう。4,000万
減っちゃうわけです。40年の間に上り詰めた人口が、その後40年たったら元にもどっ
ちゃう。そうしたらまずいということで、おそらくは、この保育所の問題だとかっていうも
のがもう本当に現実的な問題として、そういった子育ての施設をちゃんとつくらなきゃい
かんという考え方に、区長はなっているんじゃないかと思うんです。そうなると中野区っ
ていうのは、過去の40年から今良くなったんだけど、将来の40年は、衰退するんじ
ゃないかと。人口が減っちゃいますから。だから、非常に難しい社会になりますけど、杉並
や練馬に比べると、中野区の保育所や幼稚園の数が非常に少ない。具体的な保育関係の施
設をつくる計画を立てなきゃまずいという表現をですね、ぜひこの中に入れてもらいた
いと思います。以上です。

○宮協会長

まず、事実関係として、中野区の人口というのは2040年までという期間で減少するのでしょうか。

○永見基本構想担当課長

審議会にお示しをさせていただいている人口推計では、2040年ごろまで中野区の人口は増加をし続けるとしております。

○宮協会長

その点はそうとして、ただ今ご指摘がありましたように、子育てにつきましては、お手元の案の1ページ目、それから、特に2ページ目の冒頭に、子育てについての重要性、関連施設の充実を進めていくことが求められるということで、2ページ目の「③外国人住民との共生」に入る前の、ちょうど上の文章のところに指摘をさせていただいております。今のご指摘につきましては、これを受けまして、分野別等の計画のところ、中野区としてどうご判断いただくかということですが、我々基本構想審議会では、今ご指摘ありましたように、施設の充実、こういったものをきちっと進めていく計画というものを持ってくださいという指摘をさせていただいております。部会の方で何かございますか。

○和泉部会長

はい。和泉です。本来は戸辺子ども教育部長にご説明いただくのがいいのかもしれませんが、区内のやはり保育園・保育所に関しては、区の行政になるわけなんです、幼稚園に関しては、区立幼稚園以外の私立幼稚園が区内では多く利用されておまして、そちらの私立幼稚園の方というのは、区が直接ではなくて、東京都が所管をしております。しかし、所管の違いも含めて、全体としての教育の中身ということについては、中野区の中でしっかりやっていきたいと思いますという取組みはあります。ただ数とかそういう需要に対しての調整という部分については、幼稚園を含めてという形ではなかなかやりにくいというのが現状としてあるのかなというふうに思います。

○宮協会長

今のご意見につきましては2ページ目のところに若干ですね、子ども・子育て関連施設の充実といったような表現の中でもう少し整理ができるかどうか検討させていただきたいというふうに思います。その他、いかがでしょう。

○饗庭部会長

都市・防災・環境部会の部会長を務めさせていただきました饗庭でございます。いくつかあるんですが、1の「(1) 将来を見据え対応すべき社会状況等」に、①から④まであ

るんですけども、これは現状認識と時代がこういうふうに変わりそうだとことを示すところだと思うのですが、ソフトに偏ったことばかり書いてあってバランスが悪い、というのが率直な印象でございます。都市・防災・環境部会の中では、例えばまだまだ災害に対する備えが十分でなくて危ない部分もあるだとか、すごい災害が来るかもしれないという予測もありました。あと公園が足りないとか、まだ基本的な住環境がうまくできていないんじゃないかみたいな現状認識もありました。だからそういうことを、例えば⑤として入れておいていただかないと、ここを前提として10ページ目の都市・防災・環境部会の部分を読んでもつながらないのですね。だからそこは何か書いておかないといけないかなというのが一つございます。

あとちょっと細かいところで気づいたのは、2ページ目の「②超高齢社会への対応と子ども・子育て関連施策の充実」の最後の段落ですけども、将来にわたって特に20～30歳代の定住人口を確保していくと書いてあります。言いたいことは分かるのですが、次のページを見ると、中野区は20歳代の転入者が特に多いと書いてあるんですね。だから、何か矛盾してるんじゃないかなっていうふうに受け取られないかと思ひまして、もうちょっと正確に書いたほうがよろしいかなというふうに思いました。正確な状況は、おそらく20代で転入してきて、子どもができるころに出ていってしまうので、20代は多いけれど30代が少ないということなのかもしれないですし、あるいはその住み続けられないっていうことの方が大事だと思うので、住み続けられないっていう表現を入れたほうがいいんじゃないかなっていうふうに思いました。そして、定住人口の意味を調べたら、交流人口とか関係人口との対比で使われる言葉で、ただ住んでる人という意味で、住み続けるという意味はないようなので、表現を精査していただきたいというふうに思いました。以上2点でございます。

○宮協会長

ありがとうございました。重要なお指摘をいただいたというふうに思います。2ページ目のところで、副会長ともご相談させていただいたうえで、防災ですとか、そういったハード面のところも含めて、ここに記載をするということは、これからの自治体において不可欠なことだと思いますので、これは事務局とも相談をしつつ、ちょっと私どもの方で検討した上で、部会長の方には、ご相談をさせていただくというふうにしたいと思います。それから2ページと3ページの両方に関係するところですけども、確かに、20代の転入者が多くという中で、ご指摘いただいたように、要するに子育てに入ろうとすると出てい

ってしまうというのが現実問題としてあるわけですね。それは住宅の問題やコストの問題ということもあり、これは中野区でずっと言われてきたことです。どういう書き方をするかは別としても、もう少し整合性のある表現に整理する必要がある、というふうに思います。区民が読んで違和感が出てしまうとよくないと思いますので、これについても、預からせていただきまして、適切な表現ができるようにしたいと思います。ありがとうございました。

○吉村委員

都市・防災・環境部会の吉村です。3 ページ目の「(2) 改定にあたって重視すべき3つの視点」というところを読むと、このつながりをどう受けとめるかということですね。やっぱり暮らしていく時のコミュニティもそうかもしれませんが、どうやって地域との関わりを持てるかっていうこと。そして、中野区ってすごく懐が広くて、皆さんがたがここに住んでくれて、または戻ってきてくれるよっていう、特色があること。行政だけでやるのではなくて、もっと区民の皆さんが持っている資質だとか、考え方を出して行って、みんなと一緒にやっていきましょうということ。そういうまちにしていこうってということが書いてある、というふうに理解をしています。たぶんそれが今までよりも強調して、区民と一緒にやっていこう、それを受け入れる区であろう、ということをここで言っているのが、この3つであると思うんですね。

それを受けて次の4 ページのところ、自治・共生・活力の最初のところにカギカッコで「なかの暮らし」っていうのがあるんですね。この「なかの暮らし」というのをどういうものとして認識するかっていうことを、この審議会で1回全員で共有しないといけないかと思います。たぶん、3 ページで言ったようなことができるから、中野ってそういう多様性を受け入れるんだよねってことがあって、そこで皆さんが、今までそんなに関係性がなかったけど、何らかのつながりをもつことで、魅力あるまちになっていくってことを望んでいるんじゃないかなというふうに思ってます。

私は都市・防災・環境部会の委員として関わったのですが、10 ページをご覧いただきたいと思います。その中で、上から4行目、区民を中心とした多様な主体が協働しながらっていうことが、やはりここでつながってくると思うんですが、その時に、例えば、「① 快適で魅力ある住環境」の中で、まちなかの魅力ある空間、というふうに出てます。このまちなかっていう言葉もですね、実は部会で説明を受けてはいるんですけど、たぶん他の方々は、唐突に思うと思います。これは6月に国交省から出た、歩いて楽しいまちの中の、ま

ちなかっていう言葉が実は出ているわけです。そういった空間をつくることってというのは、先ほど言ったように、まちの中を散策することやいろんな人たちに会うことによって、このまちの良さに気づいてもらう機会とか、暮らしていて楽しいと思えることを作り上げていく雰囲気だと思うわけです。その時に、国交省としてはそういったまちをつくるために手を挙げて欲しいということを書いて8月まで募集があったわけですが、たぶん中野区は手を挙げてないと思うんですね。まだまだたぶんその募集はあると思いますので、こういうことを目指すならば、そういったことに手を挙げていくことが、10年先への一つのスタートだというふうに思います。それからもう1点、ここに出てくる国交省の言ってるのが「We do」というものですね、ウォークアブルだとか、それからダイバーシティだとか、それからオープンだっていう言葉があります。そういった意味では、今日ここで出ているような中身のことがその辺のところとすごくリンクするというふうに思ってます。それからその下、②のところの下から3行目に、実効的なエリアマネジメントって言葉が出てきています。これもですね、誰が担うのかとか、どういう内容をやるかっていうことがここではなかなかちょっと見えないと思います。結局はまちのにぎわいを創出するための一つの策として、エリアマネジメントして、まちの価値を上げていくっていうことがあると思うんですが、これもやはり行政だけではやれないと思うので、どういう担い手がやっていくか。先ほど言っているように、多くの方々が、中野のまちづくりに参画してくれるってこういうことの受け皿として、こういうものがあるんだってことを書いていくことだと思うんですね。そうなってくると、ここの都市・防災・環境のところだけにあるのではなくて、3ページのところ等に、こういったエリアマネジメントの仕組みだとか展開の必要性があるってことを、出していてもいいのではないかなというふうに思います。以上です。

○宮協会長

ありがとうございました。今ご意見をいただいた点なんですけれども、確かにですね、3ページのところは、私どもに対して区長の方からいただいた重要な視点であるわけですが、これも、これと部会で議論したところの横のつながりですね、これがなかなかわかりづらいという部分があると思います。したがって、一つの考え方なんですけど3ページ目の「(2) 改定にあたって重視すべき3つの視点」のところこれ①②③というふうに、括ってるんですが、この後にですね、例えば先ほどの自治・共生・活力部会の「なかの暮らし」だとか、あるいは今ご指摘がありました「まちなか」といったような国交省のこういった

考え方、そしてエリアマネジメントについて、どう扱うかというのは、分野別とかそういったところにも関係するとは思いますが、今の3ページの部分について、もう一段落ぐらい書いて、各部会との横のつながりを整理するという事も検討させていただきたいと思います。

そのほかお願いします。

○城山委員

今の議論に続く質問ですが、「なかの暮らし」ってすごく大事なコンセプトのような気がするんですけど、いきなりポンと出てきて、何か説明がちょっと薄いと感じます。基本構想の中で「中野」という名前を打ち出していくってことは、「中野」っていう自分たちのオリジナリティを外に示すっていうことだと思います。「なかの暮らし」というのは、どういう地域で、どういうふうにつながっていくことを目指しているかっていうのを表した言葉ですね。それがたぶんすべての部会に関わる問題と繋がっていくと思うんですけど、もしこういう中野ブランドみたいな感覚で「中野」っていう言葉を使って新しいものを概念として出そうとするのであれば、こんな説明だとちょっと余りにも唐突ですし、アピールできてないっていうか。もしそれを売りにしてやっていくのであれば、もうちょっとそこを強調する書き方にしても、いいのではないかなと思います。

○宮脇会長

ありがとうございます。その通りだと思います。ただ全体としてこれを整理するのに、審議会としては、「なかの暮らし」といったことを部会としてご指摘をさせていただき、そしてこの答申の案に、こうやって提示をしていくということになれば、これをブランドとして使うかどうかについては、中野区さんの方の最終的な基本構想のご検討次第というふうには思います。その際に、これを使っていただくということになれば、当然ですけどもそのコンセプトについては、この内容を踏まえてですね、きちっと具体的に整理をしていただき、区民にわかるように伝えていっていただきたい。そういうお願いは明確にさせていただきたいと思います。

○城山委員

すいません。あとは細かいとこなんですけれども、私は子育て・教育部会だったので関連のところを見ていったときに、「よりよく」という言葉がたくさん出てきます。例えば6ページ目の「～「未来を担う宝」である子どもを地域全体で育むまち～」の2段落目の下から2行目に、これからの社会の中で「よりよく生きる力」とか、7ページ目の「⑤ 社

会の変化に対応した教育・保育」の中でも、「よりよく生きる力」とか、「よりよい学校教育」とか、「よりよい社会」とか、頻出しています。しかし、良いとか悪いとかっていう概念って、やっぱり人によって何を良いとするか違いますし、すごく曖昧な表現だと思うんですね、例えば、より自分らしく生きる力とか、より特色ある学校教育とか、より活力があるとか、互いにかかわり合いのできるとか、もうちょっと具体的に書かないと抽象的で何を目指しているのかわからない。もっと言うと、良いつていう言葉は、価値観を押し付けている感じがして、私はあまり使いたくないです。何を良い悪いとするかというのは、みんなですべてが選択できるような余地を残す書き方がいかなと思います。

○宮協会長

「よりよく」が多いな、というご指摘はその通りだと思います。確かに、読んでいくと、よりよいという言葉では、率直に言えば、ごまかしているような感じが出てきてしまうので、きちっと書けるところは書くし、個々にとってよりよいものを選ぶっていうことも当然ありますから、文章については精査させてください。ありがとうございます。

はい。そのほかお願いします。

○小澤副会長

私は健康・医療・福祉部会の部会長を務めさせていただいたのですが、先ほどの饗庭部会長の話とも似ていますが、1ページから3ページのところが総論的な要素ということで、例えば1ページ目の「②超高齢社会の対応と子ども・子育て関連施策の充実」というところで、実は、この超高齢社会への対応というところの医療、介護及びその意味での地域の基盤づくりということに関しては、ほんの一行しか書かれていないんですね。1ページ目の下から2行目から3行目なんですけど、ここのところで健康・医療・福祉に関連することをもっと書いていただかないとこのあとの展開にちょっと続かないんですね。要介護状態への医療ニーズが高まっているのは事実ですので、それに対して中野としてどういうクオリティを持つのかをここで書いていただいたほうがいかな、というふうに思った次第です。健康・医療の要素が薄い総論になっているということが改めてわかったので、そこはぜひよろしくお願ひしたいと思います。

○宮協会長

はい。ありがとうございます。これは、②のところに加筆をさせていただかないとやっぱり全体的なバランスやつながりが、よくないっていうのはその通りですので、副会長とご相談させていただきます。

○佐藤委員

3 ページ目の、「③未来を協創する垣根を越えた協働」というところなんですけど、場所をとっている割にはあまり意味がないような文章に思えてしまうんですね。さらっと読んだら、ともに取り組んでともに作っていきこうっていうことだけが書いてある文章のようで、ここまで引っ張って書くような内容でもないのではないかなと思えてしまうんです。この協創と協働っていう言葉も、ちょっと調べてみても私あまり詳しくないんですけど、括弧書きするようなそんなに重要な内容の言葉でもないように見えるんですね、何かものすごい深い意味を持たせてカッコ書きにしているような気もしないので、ここの③に関しては、もうちょっと何か変えることができるのではないかなというふうに思いました。

○宮協会長

確かにですね、ご指摘のうち、協働に括弧がついてるっていうのはこれは、まず従来一般的に言われる協働と違うのかと言われれば、おそらくそういう含意はないと思います。ですから、これは単なる強調すべきところでもないかもしれません。しかし、協創については、この言葉だけだとなかなかわかりづらい。要するに、一緒にやるだけではなくて新しいものを作っていきましょうという、そういう意味だと思うんですが、ここの部分については先ほどですね、ご指摘いただきました他の部会との間の横串をこの後に書くというところがありますので、確かに③のところでもここまでボリュームを確保するかどうか。特に前半のところなんかは繰り返しのところがあるような気がするので、特にその最後の3行ですね、ここで意味がきちっと伝わるかどうかというそういう形で検討はさせていただきます。その上で、先ほどご指摘いただいたようなこの後に、全体に横串をつける。そういうものが入っていけばより明確になるのかもしれないということでもちょっとそれも検討をさせていただきます。ありがとうございました。

はい。そのほかお願いします。

○饗庭部会長

3 ページ目の「(2) 改定にあたって重視すべき3つの視点」は、全部に通じる大事なキーワード、発想のヒントが書かれているところじゃないかと思うんですけども、ちょっと改めて後ろと対応関係をとっていくと、どの部会も新しい物語と再出発するところにちゃんと触れてないように思えまして、大丈夫かなと心配になりました。この言葉はここで出てきてここで終わってるんですね。緩やかなつながりはうしろで受けていたりとか、協働・協創はあちこちに散りばめられてるんですけど、どうも②番が弱いなあというのが

ちょっと気になりまして、後ろの方でこの言葉を受けていけるといいんじゃないかなと思
いました。ちょっと具体的な対案がないんですけれども少しそこが気になりました。

○宮脇会長

ありがとうございます。これはもともとは区長の言葉で言うと、「スタートアップ」だっ
たと思うんですね。この言葉がまたなかなか含意が難しいということがあり、こういう言
葉に変化をした経緯があります。確かに全体的にダイレクトに結びついてくるっていうと
ころがわかりづらいので、どちらかというとも各部会ごとのものはまとまりがある程度きち
っとしておりますので、それを横串でさすようなところに、流れがきちっと分かるように
ですね、検討はさせていただきたいと思います。部会の方で何かちょっと加えていただき
たいということになれば各部会長の方にご相談をさせていただきたいと思います。

○小澤副会長

私たちの健康・医療・福祉部会でのスタートアップの意味づけは、人生の新しい物語の
始まりというものではなかったです。新しい物語っていうのであれば新しい政策とかシス
テムが始まるっていうかなり広い意味合いでとらえられるのでいいのですが、これに人生
のという言葉がつくと、この3ページ目の「②新しい物語のはじまりと再出発のまち」は、
かなり狭い話になってしまう。例えば、これまでの仕組みと違うような医療とか介護とか
のありようっていう議論であれば、スタートアップという意味合いのイメージと合うし、
部会でも議論してきたのですが、人生の、と狭くとらえられると議論の内容と合わない
なという印象があります。最初の時に、スタートアップは、人生の新しい物語が始まる
という意味ですよってはっきり言われれば、当然、それを前提として議論を始めるんですけ
ども、ここで今指摘されて改めて部会で考えてくれと言われても難しいと思ったのが感想
です。

○宮脇会長

これ表題の方では新しい物語の始まりになってるんですね。また、非常に安易な話な
んですが、今のお話でいうと、人生のっていう、部分がなければ、イメージ的には近いん
ですか。

○小澤副会長

例えば新しい医療介護の仕組みの始まりだとか、新しい仕組みで支え合うとか、そうい
う話はわかるんですよ。そもそもそれを前提として議論してたから。ところが、「人生の」
という言葉が入ったとき、普通に考えると新しい区民の皆さんがどのような人生を始

めるのかっていうイメージでとらえるものではないかと思います。少なくとも健康・医療・福祉部会では議論が難しいだろうという印象を非常に強く持ちます。

○宮脇会長

そうすると、この表現は、もともと区長からの諮問のスタートアップという言葉からきているので、この日本語の表現そのものを今お話があったように、例えば、それこそダイレクトに、新しい仕組みでも何でもいいと思うんですけども、再度検討してみる。そういうことを含めて検討した上で、各部会にこの言葉として検討をお願いするかどうかは別としても、全体として整合性を持っておかないといけないので、今のご指摘を受けてこの表現については、副会長とご相談させていただきながら、ちょっと整理をさせていただけるでしょうか。

はい。そのほかお願いします。

○岡井委員

自治・共生・活力部会の岡井です。全編にわたって、持続可能なまちというようなキーワードが再三出てくるんですけども、今回検討しているのは基本構想なので、今後区政を行っていくときに、何かにつけて立ち返る指針ってということだと、本気でない言葉が入っていると、まずいなと思います。持続可能って言葉だけだと、そのあとに何も紐づかないんですけど、これってSDGsのコンセプトそのままなので、追加でSDGsってキーワードを入れてはいかがかなと思います。これを入れると、17のターゲットと169のアクションプランをやるってことが責務としてひっついてくるので、本気だなんていうことは明確になると思います。実際に今、内閣府が、地方創生ということで推進をされていて、今日現在で60の都道府県と市区町村が、SDGs未来都市に選定をされていて、区長が標榜されている自治体3.0を推進してる奈良県の生駒市もここに入っています。近くでいくと、東京都だと日野市、あと神奈川県自治体がとても多くて、横浜市、川崎市、鎌倉市、小田原市があって、川崎市は、行政の基本計画の中に完全に入り込んでいて、各分野の施策の方針や事務事業のところにはアクションプランやターゲットというところが、それぞれきちっと紐づいた表になって入っています。事務事業評価するときにも、SDGsだと評価指標っていうのがきちっと確立しているので、それを入れてインプットとアウトプットっていう関係性だけじゃなくて、将来にわたるアウトカムというところでも、評価しやすく、ガラス張りで本気度がより試されるっていう形になるので、これだけ持続可能性っていうのをいっぱい入れていることもありますし、本気で中野区も取り組んでいかないとまずい状況だと

思いますので、先ほど会長がおっしゃったような表現の問題なのかもしれませんが、区民向けに出すときにはご検討いただければ幸いです。以上です。

○宮脇会長

ありがとうございます。どこに入れるかについてはちょっと検討させてください。行政運営のガバナンスの問題というふうにも考えられますので、行財政のガバナンスについては、区側でご検討いただくという形になっておりますので、そこに我々として意見をお伝えするという形も含めてちょっと検討させてください。10月にそれはお返しをするという形にしたいと思います。

○佐藤委員

SDGsについて、私はたまたま知ってますけど、それは一般常識として中野区民全員が知っているわけではないと、私は思ってしまうんです。中野区は小学校や中学校で習ってないんですね。その辺りってというのはどういう感じなんでしょうか。

○宮脇会長

はい。確かにその通りだと思います。これは国際機関の方で提示をされたものであって、それに対して日本政府が地方自治体に対して、確か交付金とかそういうものをセットで推進していく、というものですので、区民の皆さんに浸透性があるかということ、おそらくほとんどないと思います。したがって冒頭をお願いしたことにもつながるんですけども、この基本構想審議会の答申を、区民に説明する場合、あるいは基本構想に反映させる場合にはそういった語句について、きちっと説明をしないとなかなか伝わらないというのはその通りだと思います。

そのほかお願いします。

○相川委員

子育て・教育部会の相川です。先ほど小澤副会長がおっしゃった新しい人生が始まるの部分についてなんですけれども、転入してくることだけをもって、人生の新しい物語が始まると捉えてしまうと、おっしゃるとおり医療や福祉につながらないなと思ったんですけども、やはり人が病気したりですとかけがをしまったりっていうネガティブな意味で始まった新しい人生を応援する、というようにつなげられると、そのつながりが生まれてこないかなと感じました。以上です。

○宮脇会長

ありがとうございました。副会長とご相談させていただいて整理をさせていただきます。

そのほかお願いします。

○和泉部会長

はい。今の新しい物語と再出発というところにも関連してなんですが、子育て・教育のところ、7ページ目の「④自らの可能性を伸ばし成長する若年世代」という書き方をし、中高生、大学生といったある程度年齢を狭めた形で今のところ書いてるわけなんですけれども、ここはもっと広げて、20～30歳代も含めた若者全体という形で表現し、若い世代の可能性を伸ばしていくというふうな形に改めるというのも一つの方向性で受けとしては、いいのかなというふうに今思いました。

○宮協会長

なるほど。20～30歳代あたりのところも視野に入れてっていうことですね。これはご相談させてください。はい。そのほかお願いいたします。

○大塚委員

健康・医療・福祉部会の大塚です。2ページ目の「②超高齢社会への対応と子ども・子育て関連施策の充実」の最後の段落で、地域の活力を今後も維持していくために、特に20～30歳代の定住人口を確保していく。そのためにも子ども・子育て関連施策の充実を…と書いてあります。子ども・子育て関連施策はすごく大事だと思うんですけども、定住人口確保していくための方策は、子ども施策だけではないと思います。20～30歳代が地域に密着して地域の活力になるために、20～30歳代の声やどういうニーズがあるかとか、どうやったら地域に参加するかっていうことをもっとヒアリングして欲しいと思います。私は20代ですが、まだ子どもがいないですし、これだけ見ると、20～30歳代ってもっといろんな考えやニーズがあるのに書かれていないと感じます。例えば、町内会に参加したいけど、ちょっと地域の集まりが閉鎖的で参加できないとか、まちづくりのこういう話し合いでも20代だとなかなか敷居が高くて参加しづらいとかそういったいろんな声があると思うので、子ども・子育て関連施策だけではなくて、いろんな要因が20代30代の定住人口を確保していくために必要ではないかというふうに思いました。以上です。

○宮協会長

はい。ご指摘ありがとうございます。基本的にはおそらく、横串が通ってない、または不足をしているっていうところに問題があって、自治・共生・活力のところ、今ご指摘いただいたような点も議論し整理してるんですがそれが2ページ目のところにきちっとつながっていないというような問題があると思います。そのあたりのところを整理してまた

ご相談をさせていただきます。

そのほかいかがでしょう。

○室伏委員

子育て・教育のところで、ハードの部分は出ていますが、ソフトの部分があまり出ていないのではないかと感じました。私も子どもを教えている立場にありますが、先生方の暴言や暴力という問題が非常に多いと感じています。子どもたち、あるいは保護者が安心できるような環境を作るためには、例えば先生方が様々な研修を受けられる機会を充実させるといったことが考えられると思います。我々の大学では、年に2回、指導者講習会が必ずあります。ケーススタディで、どういった問題に対してどういうふうに対応しているか、というような内容です。子どもたちを預かる側とすると、子どもたちの周辺でいろんな事件や事故が起こりますし、SNSなどによるトラブルに巻き込まれる子どもたちも多いので、そういったところも細かく見られるような中野区の学校であれば、今子育てしている人たちに10年後も中野区にずっと住んでいようと思ってもらえるんじゃないかな、と感じましたので、どこかに入れていただければなというふうに思いました。

○宮協会長

ありがとうございます。これは子育て・教育部会の方では今のご指摘の点というのはどういった議論がされていたのでしょうか。

○和泉部会長

就学前及び就学の子どもたちに対する質の高い教育や社会の変化に対応した教育というところで議論を重ねてきておりますけども、そういった部分については、前提として当然あるものとして、その先にという議論で進んできたかというふうに理解をしております。

○宮協会長

そのほかいかがでしょう。

○饗庭部会長

これも横串の話なんですけれども、8ページ目の「(3) 健康・医療・福祉」の「①多様な生き方が受け入れられる社会」のところに、最初に国籍や年齢の違い、障害の有無、性自認や性的指向に関わらずと書いてあって、ものすごく良いことが書いてあると思うんですね。ただそれが他のところに飛んでなくて、例えば2ページ目の「③生涯を通じて健康に過ごせる環境」のところには、外国人のことしか書いてないんですね。要はセクシャリティの問題とか、それがどう多様化してるかとかってということが書いていないので、で

できれば全部統一してきちんと同じ説明の仕方をしていただけるとすごくいいなというふう
に思っています。それは用語の統一というか横串のところをお願いしたいと思います。

○宮脇会長

これは、概念的なことにもなりますので、全体で検討させていただきたいと思います。

○小池委員

自治・共生・活力部会の小池です。用語の統一というところで1点気になったのが、全
体を通して、人々と区民は何が違うんだらうかとか、子どもの定義はどこまでなんだらう
かとか、具体的に誰を指していることなんだらうかという用語の定義の部分が、全体を通
して、若干ばらつきがある印象を受けました。それから、仕方がない部分ではあるんです
けれども、多様と様々をたくさん使っていることによって、何を指しているのか若干曖昧
な印象を受けます。なので、用語定義の部分で、特に頻出している言葉に関しては、もう
少し具体的な言葉に置き換えていただいたほうがいいのではないかと思います。

○宮脇会長

ありがとうございます。同じような言葉が頻出している場合には、整理をしたほうがい
いと思います。一方で、子どもとか、同じような言葉であったとしても分野別で取扱いが
違うという場合も当然ありますので、可能な範囲内で整理をするということにさせていた
だきたいと思います。

○佐藤委員

さっきの室伏委員のおっしゃった教育に関する話なんですけど、私も同じように考えて
いて、7ページ目の「⑤社会の変化に対応した教育・保育」というところに、子どもたち
はこういう教育が受けられるよっていうことは書いてあるんですけども、そのための前
段として中野区は教師がもっと学んでいけるという権利を大事にして欲しいと思います。
先生はものすごく学ばないと、教育できないんですよ。だけど学ぶ時間がもらえないので
大変なんです。だから、そこを保障するっていう姿勢を載せるっていうのはすごくいい
ことじゃないかと思うので、ぜひ、検討してみてくださいがあればありがたいと思います。先
生をもっともっと自由に伸ばして羽ばたかせてあげられる中野っていう感じでいけたら
いいんじゃないかと思っています。

○宮脇会長

はい。そのほかいかがでしょう。

○城山委員

審議会からは、高い目標を置いて頑張ってくださいということを答申するものだと思います。しかし、「すべての区民」とか「すべての」という言葉が出てきますが、さっき岡井委員がおっしゃったように本気度というか、本当にできるものなのかということ考えたときに、「すべて」を対象にして達成するのは、率直に言えば無理ではないかと思います。例えば、4ページ目の「①区民と協働・協創する自治体」のところですけど、すべての区民が、多様な媒体や手法により必要な情報を入手できる環境が整い、区政や地域に関する区民の関心が高まり…というところ。もちろんそれが理想なんですけど、やっぱりすべてのって書いてしまうと絵に描いた餅っていう感じがして、区長にこういう目標を頑張って達成して欲しいっていう、現実的な重みのある本気度の高い答申にするには、すべてのって書いてしまうと、理想的すぎるのではないかと思うんですよね。要するに、すべての人がという表現を軽く書いてはいけないのではないかと感じました。例えば7ページ目の「④自らの可能性を伸ばし成長する若年世代」もすべての中高生世代は、同年代の仲間や幅広い世代との交流により、地域の一員として、地域課題の解決等に向けて、自らの意見を表明する機会や場が提供されている。という文章がありますが、もちろん、すべての人たちに提供できたらいいんですけども、全体を通して見たときに、印象として、現実的な感じがなくて、理想ばかり言っているという感じに聞こえてしまうのですが、いかがでしょうか。

○宮協会長

ご意見として伺っておきます。基本構想というのはやっぱり第一義的には理想をきちっと示すということはありません。現実問題としてそれをどこまでやるかというのは、区側の基本計画や実施計画でどこまで踏まえていただけるか、ということになると思います。しかしながら、安易に「すべて」という言葉を使うことに関してはご指摘の通りだと思います。したがって、「すべての区民」という言葉が頻出していると、本当にできるのかというご指摘がおそらく出てきますので、全体をもう一度精査させてください。ありがとうございます。

先ほどご相談いたしましたように、第4回ということで、10月18日（金曜日）の19時からもう一度この全体会を、中野区役所で開催したいと思っております。今日いただいたご意見については、副会長と各部長にご相談をしつつ、整理をさせていただきたいと思っております。10月の下旬には、区長に答申をするということになりますので、10月18日（金曜日）については、今日いただいたご意見を踏まえて、基本的には最終の答申案を

読み上げるという形をとらせていただきたいと思います。その上でさらにご意見をいただき、最終的には副会長と私にご一任をいただき、答申という形をとりたいというふうに思っております。今日は限られた時間でしたので、どうしてもこの点については伝えておきたいということがありましたら、事務局の方にご連絡をいただければというふうに思っております。それでは、今申し上げましたように答申案につきましては、本日の審議を踏まえた上で、副会長と各部会長に相談をし、整理をして参りたいと思っております。それでは、事務局から何か連絡事項がありましたらお願いします。

○永見基本構想担当課長

お車でお越しになった方がいらっしゃいましたら、駐車券の処理をいたしますので、お帰りになる前に事務局職員にお声掛けいただければと思います。以上です。

○宮脇会長

以上をもちまして中野区基本構想審議会第3回を閉会させていただきます。大変ありがとうございました。

— 了 —